

生き抜く力を育むメディア教育の在り方
学ぶ力の習得を目指して

メディア教育研究部会

1 研究主題について

今日の情報技術の発展により、我々は空間的、時間的制限を受けず、多様な情報や意見を得ることができるようになってきた。しかし、それらの情報はあまりにも膨大で、やり取りの方法も多種多様である。その中で、自分にとって本当に必要な情報を精査したり、的確に判断したり、うまく相手に伝えたりする力を備えなければ、かえって時間を浪費したり、トラブルに遭遇したりする可能性が高まる社会でもある。また、現時点の情報技術の知識や対応方法を学んでも、急速に進展する今日では、それらの知識はすぐに陳腐化してしまうことも少なくない。そこで、自分の考えを深化させる普遍的な活動（必要な情報を正確に調べ・比較したり、適切に表現・評価したりする活動）や、適切なコミュニケーション活動を通して、学び続ける力を身に付けることは、重要性を増すと考えられる。

2 研究の概要及び大会内容

(1) NHK 杯全国中学校放送コンテスト県予選

- ・日時 7月17日（金）・21日（火）
- ・場所 NHK高松放送局
- ・内容 CD・DVD審査

(2) 夏季研修会

- ・日時 8月20日（木）9:00～12:30
- ・場所 e-とびあ・かがわ
- ・内容

① メディア教育研究大会の事前発表

（さぬき・東かがわ支部）

② 講話 教育の現場におけるタブレットの端末の基本的な活用法

③ 実技研修 タブレット対応教材の紹介及び操作体験

(3) 香中研メディア教育研究大会

- ・日時 11月5日（木）13:15～16:10
- ・場所 東かがわ市立引田中学校
- ・内容

① 研究大会の概要

本校の教育目標は「生き抜く力を持った子どもの育成～小中連携教育の推進～」である。小中併設校として平成23年度から統合小学校と中学校が併設される施設一体型の小中連携校としてスタートした。小・中学校の教員が協力し合い、小学校から中学校へのスムーズな接続、9年間の連続した学びや人間形成を目指して、小中連携教育を目指している。9年間の連続した学びの一つとしてメディア教育も位置付けており、生徒は小学校段階でメディアツールの操作スキルを身に付けているが、中学校で求められる操作スキルとの差もあり、小中9年間で計画的に操作スキルを学習することが必要である。また、日常的にネットワークを使用している生徒も増加しており、使用時間や使用方法など、適切に利用するために必要な正しい判断力を身に付けることが必要である。そこで、ここでは「学ぶ力」を「多様な意見や情報のなかで自分の考えを深化させる力」として捉え、ICTを用いて効果的に身に付けさせ、積極的な学びにつなげるべく、研究を進めた。



学ぶ力を習得するために、研究を2つの側面からアプローチした。1つは学ぶ力を支える情報スキルの習得である。ここでは情報スキルを、機器の操作リテラシーと情報モラルの学習とした。最低限の操作技術を身に付けることで、学びの可能性は広がると考えた。また、安心して（特にネットワーク）情報を活用するためにはモラルの習得は不可欠である。もう一つは学びをより高めるメディア機器の活用である。情報スキルを土台に、メディア機器を活用して効率的・発展的な学習形態を探った。

② 公開授業

ア 1年 保健体育

器械運動「マット運動」



タブレットPCや大型ディスプレイを活用し、自分の動きを客観的に捉えたり、模範演技を参考にしたりできる環境を整えた授業を公開した。

イ 2年 総合的な学習の時間

「夢の実現に向けて ～職場体験学習での発見と学びを発信しよう～」



小中の系統化したメディア学習及び総合的な学習の時間を通し、職場体験のレポートに基づいて小学生や同級生にプレゼンテーションを実施した。

ウ 3年 学級活動

「遅刻の連絡」



メディアツールの特徴を振り返り、遅刻の連絡という日常的な場面における適切な対応について考え、相手に配慮したコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指した授業を公開した。

③ 指導講話 香川県教育委員会

義務教育課主任指導主事 大浦 静二氏

④ 研究大会の成果と課題

小中学校でメディア機器を共有し、指導を系統化したことで、中学校では基本操作を習得する時間を省くことができ、効率よく発展的な学習活動を展開することが可能になった。また、情報モラルの生徒指導的課題について、小中の教員間で定期的に情報交換を行うようになり、共通認識を持つて取り組むことができるようになった。メディア機器は生徒の学習活動や教師の指導を補助するツールであり、適切に活用すれば、効率よく授業を展開したり、生徒の好奇心を喚起したりすることができることが分かった。本校で最も活用されている道具の一つにホワイトボードがある。生徒一人ひとりの考えを一度に発表させたり、班ごとに意見を出し合ったりする「深める」

「広げる」ツールとしては、最適なものと考えられる。同様の機能をタブレットPCでも果たすことはできるが、手軽に活用できる「シンプルさ」はホワイトボードが群を抜いていると思われる。これらのツールの適材適所を再確認しつつ、授業改善を進めることができた。

3 成果と課題

本年度は、近年研修の対象になりつつあるタブレット端末等を活用した授業が公開され、実際の教育の場での研修ができ、県内の各中学校の今後の参考となった。今後も夏季研修会や各支部でのさらなる研修の充実を図っていきたい。